

酒色娯楽 六万五千

合計 六万五千
酒色娯楽 六万五千
賭博 六万五千
その他 六万五千

六三七、六〇〇、〇〇〇

六三七、六〇〇、〇〇〇
六三七、六〇〇、〇〇〇

六三七、六〇〇、〇〇〇
六三七、六〇〇、〇〇〇

六三七、六〇〇、〇〇〇
六三七、六〇〇、〇〇〇

六三七、六〇〇、〇〇〇
六三七、六〇〇、〇〇〇

六三七、六〇〇、〇〇〇
六三七、六〇〇、〇〇〇

大正市警察署

二五丁 警 察 局

其の上尉の降参し大分つてはよく知る
 右のとありまうが青洲の陸軍を極小校
 人同いし海軍が好者大分く御いして居る
 何一つ御座を多けりしは握素子一つで
 は海軍に於て右と立小成況に其
 中一七のて送 札を二断脚なるを入る
 横金をふ一に此着の職務上は御座
 不意の事一に金入を贈ると云ふ結果
 に至りしめ右のとありまうからこの以上を
 とことしは形事なふたれは分るは重大の
 以御計ひとあり御の御座り

池田 長功 (印)

右の三 録 録 録
 いふを力 録 録 録 録

此は去年三月頃と思ひます。此の池田と在りて
 といふ方が来ます。一人居て藝者を呼んで一月
 後池田のからさういふ。其の池田の九月頃迄
 にも、四回来た居ります。池田と在りて来ます
 一藝者を呼んで飲食をいふ池田の金は支拂う
 二持ります。白の支拂は一月後で池田の
 其の持ります。旅の如く泊ります。此の昨年一冬迄
 ありませぬ。其の池田の持ります。其の藝者他一行を泊る。其の持ります
 ありませぬ。

旅の如くは五回位はありて。持ります。現に其の業を止
 めて持ります。其の池田もありません。其の池田にありませぬ
 の書を持して。其の池田もありません。其の池田にありませぬ
 其の池田もありません。其の池田にありませぬ。

昭和三十一年一月三日

大宮市警察署

大宮市警察署長

田村 廣 印 殿

大宮市警察署

上申書

埼玉縣熊谷市文比谷三丁目
料理店 高松 志人

高松 志人

右の方には只今申上りませぬ。此様住居にて屋敷は丹
と申し料理店でありませぬ。湯桶がねに絡りませぬ。右方
へ君々に来りませぬ。申上りませぬ。

此れは昭和二十四年九月頃でありませぬ。縣の調査行
の古者之と申す方が、一人に君々に来りませぬ。油
つて行きます。此は一回は他の者と、諸の事ありませ
ぬ。

右の申す。此は右月頃を在りませぬ。此の時人に居りませ
ぬ。右の事奴と申す。此の事と知りませぬ。右の事と申す
来りませぬ。此の事と申す。此の事と申す。此の事と申す。

高松 志人

の時池田之は防室之帽子をのむつて居ります。此か
ら室之の時と申す。

池田之は二回位を縣の方が一緡に来たのは一度で

あります。縣の方と申すのは名前には判りませんが藝

者の方で、その「つまやつこ」であります。此か新

聞にあつた方と申す。此の時此の処では藝

妓を呼んで二人だつたと思ひます。此か合計 七ヶ三

百目位と思ひます。此か

其の池田之は外の人と三人位で来ます。其の時も

藝者はつまやつこで居んで合計は三ヶ一

五百目位であります。此か合計は池田之から

貴い事から注意があります。

右事案上申書を以てし申し居ります。

昭和二十五年一月三日

大宮市警察署長
 警視 田村 廣助 殿
 花岡 部 善

大宮市警察署